

## (1)「西の伊勢参り・東の出羽三山参り」双方向交流の展開

### ■計画

- ・ 仏観光誌ミシュランの3つ星を獲得した「羽黒山」を擁する「出羽三山」は、江戸時代、「西の伊勢参り」（三重県）との対比で「東の奥参り」と称され、年間15万人の参拝があるほどの聖地であった。「伊勢神宮」を「陽」、出羽三山神社を「陰」と見立て、死ぬ前に双方を訪ねることで、生まれ変りの約束を神々と取り付けることになると信じられた。
- ・ 山形県では平成26年6月～9月に開催の「山形デスティネーションキャンペーン」を契機に、地元市町等が中心となり出羽三山神社を巡る着地型現地プログラムの造成・エージェントへの提案など、「東の奥参り」の再興を図る取組みがなされているが、出羽三山への誘客に軸足を置いたものとなっている。
- ・ そのため、今回のプログラムでは、伊勢神宮側の観光関係組織と連携することで、「西の伊勢参り」と「東の奥参り」の対称性に着目し、一方的な観光誘客ではなく、共通のPR展開による双方向の観光交流の促進を図る。

### ■実施状況

#### ① 推進体制の整備（プロジェクトチームの設置）

- 「西の伊勢参り・東の出羽三山参り」双方向交流プロジェクトを展開するため、山形側と三重・伊勢側の行政、観光関係者、有識者等からなるプロジェクトチームを設置。あわせて、「消費者向けPRの展開（山形及び名古屋での展開）」、「『東の出羽三山参り』旅行（新）商品の造成」の各事業を推進するためのワーキンググループを設置。
- 平成26年12月に先行して消費者向けコミュニケーション推進WGを開催し、メインターゲットとして若者（女性）を対象にしていく方向性などを確認。これを受けてメインターゲットの設定、旅のコンセプト、ビジュアル、プロモーション展開、スケジュール等について、平成27年1月20日開催の第1回プロジェクトチーム会議において素案が了承された。
- 26年度に定めた方向性に基づいた27年夏ダイヤでの取組みを踏まえ、27年10月に第2回プロジェクトチーム会議を開催し、27年夏ダイヤまでの取組みの評価と改善策について協議し、28年度の取組内容の方向性を議論した。
- 28年度は名古屋便が2便化したことを受け、28年4月に山形県、三重県、伊勢市の関係者で取組内容の確認を行ったのち事業を展開してきた。28年10月に第3回プロジェクトチーム会議を開催し、これまでの取組の効果の検証を行うとともに、地方航空路線活性化プログラム終了後の新たな取組みとして、地方創生推進交付金を活用し「いせでわDMO（仮）」を設立し、観光資源の磨き上げや戦略的なプロモーションを展開していくことを確認した。



第1回プロジェクト会議（H27.1.20）



第2回プロジェクト会議（H27.10.8）



第3回プロジェクト会議（H28.10.27）

② 消費者向けPRの展開（「西の伊勢参り・東の出羽三山参り」ホームページの充実等のWEB展開、SNSによる発信、広告媒体への露出、モニターツアーの実施）

- 「いせ、もうで でわ、まいる」ホームページを充実させ、SNS（facebook）による情報発信を行った。

<平成27年度>

- 平成27年4月18日～19日に山形市内のデパートで開催された「三重と和歌山の物産展」とタイアップし、お伊勢さん観光案内人による「伊勢神宮セミナー」を開催し伊勢神宮や三重県への訪問を促進した。
- 伊勢と出羽の発信力・影響力のある方（伊勢7名、出羽5名）から双方の魅力を知らしてもらい、交流を通じて関係性を高め、それぞれの場所で相手側の魅力もPRしてもらうことを目的に「太陽と月の会 コアメンバー交流」を羽黒山・湯殿山において6月27～28日に開催し、併せて広告撮影を実施した。
- 平成27年3月29日にキックオフイベントとして実施した「山伏ジェット」は多くのメディア等で取り上げられ、その後WebやSNSでの展開や、参加した雑誌・新聞記者による特集記事の掲載等広く情報発信が図られたことから、7月15～18日にモニターツアーとして「山伏ジェット第2弾」を開催した。また、参加者の一般募集と併せて山形県内でテレビCMを放映し、名古屋便のPRを行った。
- 山伏ジェット第2弾モニターツアーでは、名古屋の女性雑誌「KELLY」とコラボして取材チーム・モデルにも参加いただく一方、行程内で「いせでわ ベっぴん・すっぴんビューティーナイト」と称して、精進料理を食べながらのトークショーを開催。後日「KELLY」に採録紙面を掲載した。
- 山伏ジェット第2弾と併せて、平成27年7月16日には、三重・山形両県知事も参加し、「山形&三重 観光フェア」を開催し、白装束姿の吉村山形県知事と、伊勢木遣り姿の鈴木三重県知事が「西の伊勢参り・東の出羽三山参り」のPRを実施した。愛知県やFDAからも参画いただき、名古屋から伊勢・出羽の両方にお参りするきっかけづくりを行った。
- 「山形&三重 観光フェア」の告知と、山形への観光誘客を目的に、平成27年7月15日には「やまがた観光キャラバン」を行い、新聞社でPRを実施した様子が新聞記事掲載された。
- 平成27年7月20日の「シティサマーフェスタNAGOYA」（名古屋市）、8月1日の「伊勢神宮外宮さん ゆかたで千人お参り」（三重県伊勢市）への出展や、三重テレビの特別番組「芭蕉が詠む 祈りのこころ」に協賛し、中京圏において「西の伊勢参り、東の出羽三山参り」のPRを行った。

- 平成 27 年 10 月 23 日～26 日には、山伏ジェット第 3 弾を実施し、出羽三山では宿坊への宿泊、瞑想や講和等、伊勢神宮では正式参拝の実施するなど、観光色を薄め体験を重視した行程で行った。また、山伏ジェット第 3 弾と合わせて、名古屋空港で行われる空の日イベントに参加し、白装束姿での P R を行った。
- 平成 28 年 1 月 27 日～28 日、「やまがた空港キャラバン in 愛知」を実施。2 便運航し利便性が向上する名古屋便を、テレビ局、新聞社、商工会議所等を訪問し、いせでわ等の P R を行った。

### <平成 28 年度>

- 28 年夏ダイヤから名古屋便が 2 便化したため、4～5 月にかけて愛知県側では F D A が、山形県側では協議会において、テレビ CM のスポット放送を実施した。また、あわせて山形県内 4 番組内でパブリシティを行った。
- F D A 機内誌では、2016 年夏号において F D A が 2 1 ページの山形特集を組むとともに、協議会では 4 ページの広告を出し、F D A と協議会で連携して広報を行った。
- 旅行好きなアクティブシニア層を主たるターゲットとした「おいしい山形空港旅くらぶ」を平成 28 年 4 月に設立。会員限定の運賃助成の実施により会員数が増加した。その後、登録されたメールアドレスへの効果的な P R などで、会員限定の伊勢参りツアーを販売し好調に催行されている。
- 平成 28 年 6 月に、いせでわ両参りの動機付けとして、「両参りご朱印帳」を製作。出羽三山（羽黒山・湯殿山・月山）と伊勢神宮（内宮・外宮）、二見興玉神社で、ご朱印帳が完成するように両 A 面設定とした。また、山伏ジェット第 4 弾でのモニター調査を行い、その調査結果に基づき改良を行った。
- 山伏ジェット第 4 弾では、平成 28 年 6 月 10 日から中京圏、山形双方の旅行会社の担当のほか、中京圏のマスコミも参加し、さくらんぼの朝採り体験を入れるなど観光色を強めた行程で行った。モニターツアーの内容は、東海ウォーカーで掲載されたほか、テレビ愛知で放送された。
- 平成 28 年 12 月にテレビユー山形の番組タイアップで、「いせでわ」の取組みを紹介するとともに、名古屋便を利用して伊勢参りを紹介した。
- 平成 28 年 10 月 28 日には、山形において、三重県・伊勢市がマスコミキャラバンを実施し、山形県内の知名度向上に繋がった。
- 市町村と連携して利用促進を図るため、市町村が企画する「山形空港応援ツアー」を実施。空港周辺の市町だけでなく、県北、県南の地域の市町村も実施するなど、認知度向上に繋がった。



山伏ジェット第4弾(H28.6.10～13)



三重県・伊勢市キャラバン(H28.10.28)

### ③ 「東の出羽三山参り」をテーマにした着地型旅行商品の開発・販売

- 出羽三山を組み込んだ旅行商品の造成に向け、山伏ガイドコースなどの卸商品を企画カードにまとめ、旅行会社への売り込みを実施した。
- 造成された旅行商品の販売を促進するため、中京圏での新聞広告掲載費用を助成し、山形～名古屋便利用の旅行商品の販売・送客を促進した。
- 平成 28 年 9 月 12 日には、名古屋圏で初の旅行会社向けの旅行商品説明会を「やまがた観光キャンペーン推進協議会」（事務局：山形県観光立県推進課）と共催で実施し、観光の PR を行うとともに、旅行会社と意見交換を行った。
- 山伏ジェットのモニターツアーとは別に、いせでわ両参りのツアーの商業ベースでの販売実証を行った。モニターツアーと同様の 1 行程での両参りツアーを企画したものの、参加者が集まらず催行にならなかった。一方、出羽三山と伊勢神宮の別日程による両参りツアーとして、第 1 弾の名古屋発の出羽三山ツアーは順調に催行されている。参加者には 29 年 1 月に名古屋発日帰り伊勢神宮バスツアーを案内したが、参加者が集まらず催行にならなかった。両参りご朱印帳を参加者へプレゼントし、アンケートにより両参りの動機付けの程度等の検証を行う。



旅行商品説明会 (H28.9.12)

### ④ 山形空港からの 2 次交通の整備

#### 【蔵王温泉ライナー】

- 出羽三山が冬期間は一部閉山となること等も踏まえ、需要の季節変動に対応するため、本県の冬の代表観光地である「蔵王温泉」と山形空港を結ぶ予約制乗合タクシーを昨年度に引き続き運行したところ、今年度も 2 月末現在で 9 3 8 名と多くの利用実績を挙げることができた。
- 持続可能な運用ができるよう 27 年 11 月から助成率を引き下げて運賃を 1,500 円から 2,500 円に改定し、小型タクシーのみの運行からジャンボタクシーやマイクロバスを含めた運行にすることでコストを削減、助成金の大幅な減額を実現した。

#### 【出羽三山貸切タクシー】

- タクシー会社と、山形空港発着便に接続し出羽三山神社（羽黒山）との間を結ぶアクセスを開設するため、平成 27 年 4 月 22 日～5 月 1 日までタクシー事業者から企画提案を募集した。公募には 3 者から提案（うち 1 社は辞退）があったため、審査委員会により 1 社を選定した。その後、具体的な運行方法について協議を行い、6 月 20 日から 10 月 31 日までの期間限定で観光貸切タクシー「でわ、まいる号」を運行した。

- しかしながら、利用実績は 12 台 29 人に留まった。その理由は、好評だった蔵王温泉ライナーに比べ、出羽三山貸切タクシーは、空港から遠距離であることのみならず、観光地自体が持つ集客力と知名度の低さが課題となった。

#### 【レンタカー利用者の羽黒山への誘導】

27 年度の出羽三山貸切タクシーの利用が少なかった実績を踏まえ、28 年度は、レンタカー利用者の出羽三山への誘導を実施した。羽黒山のお土産店や食堂で使える「羽黒山山伏クーポン」を開発し、山形空港でのレンタカー利用者に配布した。28 年 6 月～10 月までに 154 枚の利用があった。これまで、出羽三山へのレンタカー利用のデータがなかったことから、今後の利用動向の分析に活用していく。